

| 事業区分 | 文化芸術事業 | | 育成・創造事業 | | | | |
|----------------|---|------|---------|------|------------|------|---|
| 事業名 | 演劇等による創造のまち事業 | | | | | | |
| 目的・内容 | 県内に点在している中核的な文化活動者を将来の指導者となるよう、実践と講座を通して育成する。また、演劇・ミュージカル公演創造の要となる俳優を養成するとともに、今後活発な活動が期待される団体等の育成を図る。本事業を通じて、県内演劇の活性化、レベルアップに繋げる。 | | | | | | |
| 開催日 | ①演劇ワークショップ指導者育成4回(指導者講座2回、コミュニケーションワークショップ2回 2/12・3/11) ②俳優養成講座4回(1/13・14、2/4・5) ③団体育成ワークショップ4回 (湯梨浜町ミュージカル団体育成2回 8/4・5、三朝町ミュージカル団体育成2回 8/6・7) ④高校生のための演劇スクール4回(1/4~7) | | | | | | |
| 会場 | ①湯梨浜町中央公民館 ②倉吉未来中心 ③湯梨浜町中央公民館、三朝町総合文化ホール ④倉吉未来中心 | | | | | | |
| 参加費 | 無料 | | | | | | |
| 実施状況 | 参加者数 | 202名 | 定員 | 250名 | 参加率 | 81% | |
| 事業費状況 | 予算額 | 収入 | 0円 | 支出 | 1,731,000円 | 収支比率 | — |
| | 決算額 | 収入 | 0円 | 支出 | 1,514,271円 | 収支比率 | — |
| 参加者アンケート(主なもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な演技指導より、このようなワークショップの方が団体には適していると感じた。 ・今まで主に公演の稽古が指導者としての役割と思っていたが、チームワークを固めるにはどのようなスキルを持たなければならないか痛感した。 ・これまでの先生は決まった台詞と動きなので面白くなかった。今回は自分の思いで動けて楽しかった。 ・いろいろな指導方法が楽しく体験でき良かった。 ・今後も俳優として地元で活動したいと思っており、このような専門的なワークショップを受けるとも参考になった。このようなワークショップは文化振興財団でしかできないと思うので引き続き開催してほしい。 ・戯曲の選定方法や、解釈の仕方などよくわかった。 ・普段の部活では演出方法についてとても悩んでおり、今回のスクールで少し分かったような気がした。 ・もっと時間がほしかった。 | | | | | | |
| 1次評価(内部) | <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師や実施内容をニーズや現状に沿って選定しているため、全般的に参加者の満足度は高い。また、連携や協働により事業を運営しており、これまでに構築してきたネットワークの活用や新たな広がりを実現することができている。 ・演劇ワークショップ(コミュニケーションワークショップ)および団体育成ワークショップでは、参加者の半数以上が高校生以下で、次世代を担う人材育成の目的を果たした。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者のほとんどが関係者であり、県民への浸透が十分ではないせいか、一般の方の参加が少ない。 ・一過性に終わることのないようにするため、参加者の活躍の場が必要である。 | | | | | | |
| 2次評価(内部) | <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業は年々、総じて良くなっている。全体的に見れば、今年度は過去で一番良かった。 ・高校生のための演劇スクールを受講した倉吉東高演劇部員が、ほどなく行われた財団主催事業「アトリウム劇場」の「ひとり芝居をしましょうか」に出演するなど、同スクールの内容が良かったことで、高校生が財団事業に参加するきっかけにもなった。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題は、開催時期選定と講師選定、あとは広報。毎回知った顔ぶればかりでは広がりには欠ける。鳥取県の演劇界のニーズに合わせた講師選定が求められる。 | | | | | | |
| 今後の対応、取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・24年度についても地域の状況や要望を踏まえて、講師とプログラミングし、事業を推進していく。一般の方の参加については、広報期間を長く取れるよう早めに計画を立て、チラシ等を幅広く配布して周知を図り、参加者増に繋げる。 ・参加者に活躍の場の提供するため、財団事業のアートマネージャーやワークショップ講師の補助などを検討していく。 | | | | | | |